

## 第14回トラック輸送における取引環境・労働時間改善大分県地方協議会議事録

1.日 時：令和5年2月2日 14：00～15：50

2.場 所：大分県交通会館 4階 会議室

3.出席委員：別添「出席者名簿」参照

### I.開会

(事務局：大分労働局 伊藤労働基準監督官)

- ・開会の言葉
- ・配布資料（資料1～5、参考資料）
- ・委員の交代（大分県商工会議所連合会 川村繁志 委員 ⇒ 中島英司 委員）  
（大分県中小企業団体中央会 飯田聡一 委員 ⇒ 神 昭雄 委員）  
（日本製鉄株式会社九州製鉄所 金久保龍治委員 ⇒ 岸本幹生 委員）  
（大分キャノン株式会社 早崎裕師 委員 ⇒ 山崎 大 委員）  
（国土交通省九州運輸局 河原畑徹 委員 ⇒ 吉永隆博 委員）
- ・オブザーバー出席者の紹介

### II.大分労働局 中井労働基準部長挨拶

大分労働局労働基準部の中井でございます。

本日はお忙しい中、本協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

委員の皆様には、日頃より厚生労働行政の推進にあたり、格別のご理解とご協力を賜っておりますことを、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。また、昨年末の荷主と事業者の共創セミナーでは荷主やトラック事業者の方200名が参加され、トラック運送業界に対する理解がより深まったものと思います。皆様にはセミナー参加の勧誘に際し、重ねてお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が拡大する懸念の中にあって、皆様ご存じの通り働き方改革の推進を目的とした働き方改革関連法は中小企業において本年4月から月60時間を超える時間外労働に対する割増賃金率が50%になり、そして令和6年4月より、事業者運転業務についても時間外労働時間の上限規制が適用されることとなります。これに合わせて、自動車運転者の改善基準告示は、拘束時間を短くし、勤務の間の休息时间、いわゆる勤務間インターバルを長く確保するといった改正がされることとなっている。しかしながら、トラック運送事業者においては、他の事業者に比べて明らかに長時間労働の実態があり、また脳心臓疾患労災支給決定件数も多く、労働条件、安全衛生の改善も一層推進することが課題となっています。

また、荷主や消費者の方がものを運ぶとき、荷が動かないという物流の2024年問題が

懸念されています。これに対し、個々の事業者、発着荷主を含め、サプライチェーン全体で物流をともに支えることが不可欠となっています。そのため、労働基準監督署においては、荷主に対し、長時間恒常的な手待ち時間が発生させないように努めていただくとともに、荷主の発送時間、改善基準告示の内容をしっかりとさせていただき要請を行っているところです。

また、運送取引にあたり荷主から買ったとき、代金の返却など不当な行為が疑われた場合は、公正取引委員会に通報も行っているところです。

一方、国土交通省では、持続可能な物流の実現に向けて様々な取り組みを行っていると考えています。本日皆様に参加していただいている協議会は、学識経験者・荷主・トラック事業者、そして行政といった幅広い関係者が議論していただける貴重な場であり、これまでも様々な立場から取引環境の適正化長時間労働の抑制に対する、幅広い意見を頂いており、非常に大きな役割を果たしております。

本日は、取引環境・労働時間の適正化に向けて令和5年度を取組に向けてつながっていくと思っておりますので、各委員の皆様から活発なご議論いただきますようご祈念申し上げ、開会のあいさつといたします。よろしくお願いいたします。

### Ⅲ.議題 座長 前田明 (国立大学法人大分大学 名誉教授)

#### 前田座長挨拶

今お話にもありました通り、働き方改革が本番になってきました。コロナ禍も大変なのですが、岸田総理が提唱されている経済の好循環、この波に乗って議論が進むように進めていきたいと思っている。

今まで以上に真摯な議論をよろしくお願いいたします。

#### 1.情報提供

##### 1-1 国土交通省の取組

事務局：九州運輸局自動車交通部 宗像貨物課長

##### 1-2 厚生労働省の取組

事務局：大分労働局労働基準部監督課 池辺監督課長

##### 1-3 農林水産省の取組

事務局：九州農政局経営・事業支援部 松尾食品企業課長

##### 1-4 公正取引委員会の取組

事務局：公正取引委員会事務総局九州事務所 大泉総務管理官

##### 1-5 経済産業省の取組

事務局：九州経済産業局産業部 黒木取引適正化推進室長

上記内容につき、各担当者から説明があった。

前田座長から、議場に意見を求めたが、意見はなかった。

## 2.報告事項 令和4年度における大分県地方協議会の取組

説明 事務局：辻首席運輸企画専門官

前田座長から、議場に意見を求めたが、意見はなかった。

## 3.協議事項 令和5年度大分県地方協議会の取組方針

説明 事務局：辻首席運輸企画専門官

仲委員（公益社団法人大分県トラック協会 会長）

資料7の7頁におけるチラシ目標について、商工会議所の会員が県下17,000社存在し、15,000部では行き渡らないので、20,000部に修正してほしい。

事務局：辻首席運輸企画専門官

予算との折り合いを付け20,000部に修正する。

前田座長から、議場に意見を求めたが、他に意見はなく一部修正し承認された。

## 4.意見交換

三浦委員（株式会社鶴見運送 代表取締役）

運送会社に対するセミナーが多いが、荷主に対してのセミナーを逆に開いてもらいたい。荷主と運送業者が共同で工程表を作るセミナーを主催してほしい。また、天候の関係においては、大雪の中でも荷主は期限通りに輸送してほしいと要請があり我々是对応している。特に流通業界においては止められない物資もある。そんな時は、9時間掛けてでも福岡まで輸送を行っている。乗務員は過労になり、明日運転出来ない。このような場合は、管理職に依頼している。頼もしくもあり、気の毒な思いもある。本当に物流のことを考えたルールとまではいかないが、何か考えてほしい。

十時委員（株式会社NBS ロジソル 代表取締役会長）

価格交渉に応じなかった企業名が数社発表された。優越的な地位の濫用について公表されたのは、かつてないことである。これを拝見したときに、行政は本気で取り組んでいると感じた。今後とも推進してほしい。

三根委員代理（国土交通省九州運輸局 吉永委員の代理）

働き方改革もあるが、政府の方針として、国民所得を上げていきたいというのがある。この業界の中では、いわゆる2024年問題が目前にせまっております、いろいろな検討をしてい

るところである。皆様のいう通り、後押しをしていきたいと思っている。また、この会議は荷主団体に苦しい状態をわかって欲しいというものではなく、一緒に取り組むもので、運賃を上げて欲しいというものではない。運送業界は荷主団体と一緒にパートナーとして、持続的に行っていくものだと認識している。例えば、20万円の運賃には、荷待ち、荷卸しが含まれている料金である。荷主にメリットがあるような交渉の提案をしてもらえるとありがたい。例えば、リードタイムは荷主にとって都合のいいような提案をし、同じ20万円でも適正な運賃、またはサーチャージを含んだ運送の効率化を一緒に話し合うことで、結果的には、適正な運賃が収受される。ひいては、運送業者の人材確保などの原資になっていくものになる。荷主側にとってみれば、支払う額が同じであっても、結果としては同じものが同じ額で運べるというものを模索していただければありがたい。もちろん、時間はかかるが、経産省のパートナーシップ構築宣言、荷主と運送会社がパートナーを組んでいただき対応していただくことが物流問題の解決の糸口ではないか。

#### **山崎委員（大分キャノン株式会社 物流統括部長）**

弊社はモーダルシフトに取り組んでいる。コンテナを使用し、関東、東北に出す。内航船を使用し、出来るだけ長距離のトラックを減らし、負荷を減らすことに取り組んでいる。供給不足という話もあるが、地方的な話でもあり、せつかくトラック運転手に運んでもらっている以上、空気を運んでしまっている状況もあるため、リードタイムなど全面的に見直しを行い、出来るだけゆったり長くなっても、輸送の効率化を図るために取り組んでいる。一方で、パートナーシップとの話もあったが、今後とも必要に応じ、改善を図り、コミュニケーションをしていきたい。

#### **岩尾委員代理（日本製鉄株式会社九州製鉄所 岸本委員の代理）**

我々の方でも2024年問題は理解している。製鉄所構外の輸送というよりは製鉄所構内のドライバーが不足しており、非常に雇いにくくなっている。ドライバーの高齢化が進む一方、若年者が入ってこない現状があり、深刻に受け止めている。九州製鉄所としては、鋼材の運搬をお願いしており、陸送部門としては大きくはないが、時短問題を鑑み、かなり効率よく運んでいかなければならない。この点については、高速道路の活用を推進したい。先日の寒波では、非常に道路事情が悪い状況であり、明日までには厳しい話である。製造部門としては、無理な運行計画をお願いしていけないという認識がある。したがって、生産計画を見直していく必要が出てくる。運送業者とすり合わせをしながら、お互い納得し、運送計画を立てていきたい。関東地区の製鉄所が陸送関係の中心であり、協議会であった話について、日本製鉄全体として考えていきたい。

#### **佐土原委員（全国農業協同組合連合会大分県本部 副本部長）**

鶴見運送の三浦委員の発言にもあったが、対応に向けて、大在に青果センター、2024

年問題を意識して設立している。先般、先週の火曜日の大雪時に、午前中、命に係わる話ではないので、荷物を止めるよう指示を出し、走れないのは分かっているのに、翌日午前中の集荷便は止めた。こういったことは、2024年問題を含め、全農としてしっかり考えている。一点困ったのは、備車の関係である。昼なら止めることが間に合うだろうと思い、依頼したが止まらず、結果的にご迷惑を掛けてしまった。出発した便が高速道路を通れなかった。こういったことは配慮していかなければならない。また、出来るだけ積載していくなど、13時間の問題を解決していくよう全農としては、対応していく。九州農政局の話にもあったことを全農として進めていく。

#### **江田委員（日本通運株式会社 大分支店長）**

荷主側から発言があった人材不足について、こういった2024年問題についても長時間というものを改善していき、若い人材にとって、物流業界を魅力あるものにしていきたい。

#### **榎委員代理（ヤマト運輸株式会社大分主管支店 山本委員の代理）**

労働人口が減少しており、非常に採用が難しい状況がある。大分としてはパート社員に面談をするなど、なんとか確保するように対応をしている。全体的な労働動態として、働くことが出来る人材は減ることには変わりはないので、魅力ある職場になるように取り組んでいきたいと思っている。

#### **森川委員（センコー株式会社 北九州支店長）**

長距離輸送を行うにあたり、モーダルシフトを推奨し、顧客に提供している。我々は、顧客に対し、RORO船を使用するなどの提案をさせていただいているが、地元の顧客は業者関係を見直すことになるため、ジレンマに遭遇している。パンフレットを配布しているが、弊社は独自で取組を行っており、出来るだけ早く対応していただければと思っている。価格交渉については1年以上かかることが多い。こういう空気を作っていくときが大切なので、早めに前倒しをお願いしたい。

#### **中島委員（大分県商工会議所連合会 専務理事）**

商工会議所でもあるので、トラック事業者も、中小零細企業もあり、業種は千差万別である。商工会議所としては、トラック事業者の声を荷主にも届け、会員のトラック事業者さんの声としても会員の荷主の企業に届けていく。このことはしっかりやっていく。この課題の他2024年問題を含め、その他いろいろな課題がありますので、取り巻く状況、トラックドライバーはそこまで関係ないのかもしれないが、130万円の壁の問題あるいは基盤の整備、道路の整備、港湾の整備など国や県にしっかりと働きかけていきたい。合わせて、物流の環境整備、労働環境の整備などにも取り組んでいきたい。

#### **小野委員（大分県商工会連合会 専務理事）**

商工会連合会としても、荷主企業も運送業者も含まれている。トラック協会、運輸支局からの依頼については、必ず県下17商工会、会員の方に周知徹底を図る。現場サイドからも2024年問題等の知ってもらおう取組に関しては、積極的に行っているところである。当会の経営指導員が会員である運送事業者に対し、聞き取り調査を行い、数は少ないが、法改正による休憩時間確保、残業時間上限設定について、36協定を締結し対応済みの会員もいれば、歩合制であり距離に比例するので、従業員から不満が出るのでしにくいという会員もいる。燃料高騰分の影響は深刻で、2年前に比べると月100万円ぐらい上がり、なかなか料金に反映できずに苦しんでいるとの声もある。価格転嫁については、国交省の標準的な運賃を参考に、きちんと価格を定めたところがあれば、受注荷主がいるのでしにくいという声もある。半々というか、こういった内容は協議したうえで、荷主企業と運送事業者両方が知り、お互いが改善していけば徐々に環境が整うのではないかと。経営指導員が聞き取った商工会地域の現状である。

#### **芦刈委員代理（大分県農業協同組合 三浦委員の代理）**

運送業者の方がいなければ商売が成り立たないので、一緒になってこういった問題に取り組むべきだと認識している。組織を挙げて対応したいと考えている。鶴見運送の三浦委員から提案があった2つの内容についてだが、荷主が主導となったセミナーについては、生産者農家の方の理解も求めていく形になる。リードタイムの短縮であったり、事前に出荷量などのくらいあるのか分かる形を作り、出来るだけ積載量を上げるような方法を生産者と一緒になって考え、理解を求めていかなければならないと思っている。2024年問題と一緒にあって、農家組合員、役員会総会などで広く理解を求める形がとれればと思っている。合わせて、工程表的な箇所については、現場の職員と一緒にあって実現できればいいと感じている。事務局と協力しながら行っていきたい。

#### **本庄委員（大分県漁業協同組合 専務理事）**

長時間の荷待ち問題が水産物の場合は存在すると認識している。特色的なのは、年末を中心にしたブリの流通である。個人経営体が200万匹を養殖しているが、そのうちの半分を我々が加工している。加工工場は米水津というところにあるが、処理能力が60万匹ぐらいしかないところであり、年間100万匹、どうしても工場がうまく回らないときには、トラックに待っていただくという状況が生じている。心苦しい状況である。我々としては第2工場を建てて、無理のない加工、多少機械が悪くても無理のない計画通りの生産ができるような体制を取ろうと、来年度新しい加工場を整備して、50万、50万、合わせて100万トン进行处理していきたいと考えているところである。

#### **新宮委員（全日本運輸産業労働組合連合会大分県連合会 執行委員長）**

労働者からの立場、連合大分からの立場から、2024年問題というのは多く休み、働き過ぎてはいけないということになる。運送業者としては効率を上げる、従業員数を増やす、最悪は仕事を辞める、という流れの中で、従業員を増やすとは言っても、平均年齢は高く若い人が入らない人気のない職業でありますので、実態は大分でも、運送業界で決まったパイの中で人を取り合うことになる。少しでも賃金を上げて、確保したい。賃金を上げる原資は、多くはない。適正価格・適正取引、業界を挙げて声を上げていければと思っている。適正取引というと、お客と運送会社という風になると思うが、運送業界は99%が中小企業であり、お客と直接話している運送業者はそんなにはない。二次請け、三次請け、こういった部分の適正な取引が必要だと思っており、交通整理が必要だと思っている。また、大分市や別府市は貨物事業者を支援するというので、去年も燃料価格高騰の助成金、台数分っている。あらゆるモードを使って、この壁をぜひ超えていければと思っている。

#### **神委員（大分県中小企業団体中央会 専務理事）**

昨年の共創セミナーも参加しており、いろいろな話を聞いて、トラック運送事業は深刻な問題を抱えている。少しでも改善できればと思っている。1にも2にも荷主への理解、協力が必要だと強く思っている。我々のベースとなるのは、会員企業の中小企業組合に運送業界の実態はどのようなもので、これを荷主に対して継続的に周知していくかが我々に課された使命であると思っている。そこで、一つお願いがある。各省庁から多くの説明があったが、それぞれの資料を送っても中小企業さんは見ないので、A4の裏表で、このまま何もしなければどうなるのか、荷主に対してこういうことをお願いしたいと、省庁ごとポイントだけまとめるような形で資料を作ってほしい。今後も情報提供ということで、こういう形でしてほしい。

#### **事務局（大分運輸支局 高原支局長）**

本日協議会事務局が提案したように、まだまだ理解が進んでいない荷主もいるということで、来年度の計画で、パンフレットを配るということに決まった。荷主にはもっと理解していただかなくてはいけないと思っている。それだけでは不十分であり、最終的には消費者にも理解してもらわないと解決しない。また、こういったことを知らしめるためには、マスコミに取り上げてもらうのが望ましい。加えて、テレビ局の絵で出すことも考えており、この協議会自体の話はオープンにしているので、次回以降テレビが来ても撮影してもいいようにさせていただきたいと思っている。これ以外のことについても、出来るだけマスコミに取り上げていけるような内容にしていきたいと思っている。

#### **仲委員（公益社団法人大分県トラック協会 会長）**

地元の中津商工会議所で会頭をしているが、いろいろな事業が中止になった。特に飲食やイベント、今、全部復活してどンドンやっている。今日は参加の委員に対し、心から感謝申

上げます。大分県トラック協会、現在、県内に610の事業所が会員にあり、トラックは約10,000台ぐらい日本国中県内を走っています。働く人は17,000人もいます。この業界を代表して感謝申し上げます。会長になって5年目ですが、座長のおかげもあり、最初のころは心配もしたが、今日は雰囲気は良好で、これがいいんだと思う。どうしても私たち業者は荷主に対して、運賃を上げ、料金を上げてほしいという。しかし、運賃と料金をごっちゃにされていて、料金には待ったりする拘束時間などを知らない、時にはそういう運送事業者もある。それをぜひ荷主が、指導していただきたい。これ払わなくていいの、サービスでいいのと逆に言っていたきたい。先ほど、三浦委員も言ったが、県内610の事業所、一生懸命仕事をしている。この前の雪でも、うちの会社150台ぐらい車があるが、やはり帰れなくて、途中で泊まって帰ってきた。トラックが止まるんです。次の日帰ってきて、かわいそうだが、中には仕事した人もいた。それはもう個別の話で。私らは一生懸命やります。大事なことは大企業と中堅企業、中小企業、おおざっぱに言うと、360万ぐらい会社があるが、そのうちの大企業は0.3%になる。約10,000社、残りの99.7%が中小企業でお世話になっているのが商工会議所であり、中小企業連合会であり、中小企業団体中央会です。そういうところにお世話になりながら、必死になってやってきたが、やはり日本はこの30年間物価を上げずにきた。今から物価上がってもいいと思っている。どんどん物価があがり必要な給料も上がると同時に運賃も上げていただく、それをぜひお願いしたい。いつまでもコストダウン、コストカッターをやっていたら時代遅れになると思う。今日は日本通運さん、センコーさんをはじめありがとうございます。我々は仕事をもらっており、感謝申し上げます。本当は荷主に対し運賃を上げるようお願いをしなければならない。お願いします。それがまた個別に話があると思う。三根委員（代理）の話を聞いていたが、対立する構造ではこの協議会がうまくいかないで今後ともこのような形でやっていければと思う。今日、本当にお礼を言わなければならないのは、九州運輸局、大分労働局、九州農政局、公正取引委員会、本当にいますごい勢いでやってもらっているので感謝申し上げます。経産省の方もありがとうございます。とにかく皆さんに感謝して、この協議会、頻繁には出来ないが、やるときは支局長の話もあったが、事務局も頑張ってくれているので、もっとこう中身が濃くなるように多方面にアピールできるように、省庁の提案も、他の方に理解いただくように、マスコミも入れて頂いて、そこでみんな発言して、名前を出していただいて、そういう協議会になってほしいと思っております。この会を本当に盛り上げて頂いて、同時に皆さんの意見も言って、本音は、料金を上げ、運賃を上げ、燃料サーチャージも料金は別。燃料価格が上がったら自動的に上がる。下がったら自動的に下がる。そういう仕組みをやっていきたいが、払う側は一緒なので、運賃も燃料サーチャージも、出来れば上げてほしい。分けて考えていただきたい。飛行機に乗るときでも、全日空もJALも料金が上がっている。あの方式です。でも運賃や料金はきちんと交渉しますから。お客さんもうちは取引していないが、いろいろなどこ抵抗はあると思うが、ぜひテーブルについていただいて、話を聞いていただいて、もちろん厳しい意見はぜひお願いします。こちら側の提案がなければだ



めで、改善提案を持っていき、一緒になってより良い、みんながともに良くなる、その方向で、そのためにパートナーシップ構築宣言というのをしております。三菱商事の社長を代表に迎え、昨年の11月に日本商工会議所の会頭になった小林健さんが、継続されていますが、全国で約18,000社ぐらいされている。これは宣言するだけでよく、宣言して、大企業も中小企業も共存共栄しましょう、そのために話し合いをきっちりしましょう。提案しましょう。歩み寄るところは歩み寄って、そして共に成長して、日本の経済を支えましょうというものです。トラック協会も現在100者ぐらいやっています。私が会長になって皆さんにお願いしている。他のすべての産業の方もぜひ、大企業も中堅企業も中小企業もみんな宣言できるので、とにかく取引の適正化、適正価格をしないと日本はだめになる。その中でしっかりと運賃をもらいに行くので、荷主様はぜひ待っていてください。今日はありがとうございました。

#### **前田座長（国立大学法人大分大学 名誉教授）**

それでは、以上ですべての議事を終了したいと思います。委員の皆様には貴重なご意見を頂いたことに対する感謝をします。本日委員の皆様から頂いたご意見は次回協議会の運営に反映するよう事務局でお願いします。今日は円滑な議事進行に関し、ご協力ありがとうございました。

#### **IV 閉会の挨拶 九州運輸局 三根自動車交通部長**

九州運輸局の三根でございます。

この協議会は2年ぶりに対面で開催され、いろいろな協議会に出席させていただきましたが、こんなに荷主の皆様、商工関係の皆様、事業者の皆様、こんなに前向きな話をこの協議会でしていただいたのは、私、初めて経験させていただきました。とにかく物流を止めないんだと、皆さんのパートナーシップをもって、物流を止めない。この一点をもってです。そのためにはいろいろな課題はあります。それは語りつくせないものですが、向かって協力して、持続可能な物流をお願いできればと思っています。簡単ではございますが、皆さんのご協力をいただけますようお願い申し上げます。本日はご協議いただきありがとうございました。閉会の挨拶とさせていただきます。

#### **V 閉会**

時に、15時50分であった。